

第35回 **BACH** スクリーンコンサート

2024. 6月

今月のテーマ **セレナーデ**

セレナーデは、ラテン語で「穏やかな」を意味する *serenus* が語源ですが、イタリア語でセレナータ、英語は:セレネイド、フランス語:セレナード、ドイツ語ではゼレナーデとも、日本ではセレナーデ、セレナードと呼ぶことも多く、夜曲（やきょく）あるいは小夜曲（さよきょく）とも言います。

18世紀のセレナーデに典型的な楽器編成は、木管楽器とヴァイオリン2部、ヴィオラ、複数のコントラバスであったそうで、これらは「立って」演奏できる楽器で、小編成で作曲されています。18世紀以前のセレナードは夜に演奏されるための音楽であって、夜をイメージして作曲されたものではありません。



## 歌曲や楽器のためのセレナーデ

もともとセレナーデは男性が女性を口説くための窓辺で歌う曲だったんです！

- 1、シューベルト(1797~1828)：セレナーデ 3:00  
シューベルトの死後、遺作として遺された歌曲集『白鳥の歌』14の歌曲の第4曲目です。  
この曲は恋人に対する切ない想いが歌われています。
- 2、ブラーガ：天使のセレナーデ(1829~1907) 5:00  
イタリアのチェリストであり作曲家でもあったガエターノ・ブラーガはこの作品のみ知られています。
- 3、ギロック(1917~1993)：セレナーデ 2:00  
メロディの美しさから「音楽教育界のシューベルト」とまで称えられたウィリアム・ギロックのピアノ練習曲のセレナーデ。

## 弦楽のためのセレナーデ

一般的なセレナーデの種類は、交響曲と同様な複楽章による大規模な合奏曲で、弦楽合奏に欠かせない弦楽セレナーデです。チャイコフスキー、ドボルザーク、エルガーの弦楽セレナーデが三大弦楽セレナーデと言われていますが、他にもモーツァルト、ハイドンなどがあります。

- 1、ハイドン(1732~1809)：弦楽四重奏 17 番・セレナーデ 第2楽章 3:40  
ハイドンのセレナーデ「Serenade」として長年親しまれてきたが、後の研究の結果、実際の作曲者は、オーストリアの修士ローマン・ホフシュテッター（ホーフシュテッター）であることが明らかとなっています。
- 2、モーツァルト(1756~1791)：弦楽セレナーデ13番 第1楽章~第4楽章 18:00  
アイネクライネナハトムジークで親しまれ、小さな夜の曲（小夜曲）」と訳されるこの題名は、モーツァルト自身が自作の目録に書いている。  
○弦楽セレナーデ第6番 二長調 K. 239 10:20  
オーケストラのコンサートマスターたちの楽しい演奏
- 3、チャイコフスキー(1840~1893)：弦楽セレナーデ 第1楽章 9:00  
4楽章から構成される弦楽オーケストラのための楽曲で、チャイコフスキーを代表する作品として広く親しまれている。
- 4、ドボルザーク(1841~1904)：弦楽セレナーデ 第4楽章 4:50  
5つの楽章からなり、より自由な三部形式で書いています。そしてワルツとスケルツォをも登場してきます。個人的には静けさと憧れに満ちた4楽章の旋律が好きです。
- 5、ロバート・フックス(1847~1927)：弦楽セレナーデ第2番 3:30  
3曲の弦楽セレナーデを作曲しています。
- 6、エルガー(1857~1934)：弦楽セレナーデ 12:00  
作品が「セレナーデ」として完成し、妻キャロライン・アリスに、3回目の結婚記念日のプレゼントとして贈られた。
- 7、J. スーク(1874~1935)：弦楽セレナーデ 第1楽章 5:30  
ドヴォルザークの弟子として可愛がられ、ドヴォルザークの娘スクに一目惚れし（1898 恩師の教えとオチルカのことを思いながらこの曲を作ったそうです。